２　中学校における参考事例

＜Ａ　表現＞

(1) 歌唱の活動を通して

＊中学校学習指導要領「第４章　指導計画の作成と内容の取扱い　２　内容の取扱いと指導上の配慮事項」より

(1) イ　変声期について気付かせるとともに,変声期の生徒に対しては心理的な面について配慮し，適切な声域と声量によって歌わせるようにすること。

ウ　相対的な音程感覚などを育てるために,適宜,移動ド唱法を用いること。

(3) 我が国の伝統的な歌唱や和楽器の指導については，言葉と音楽との関係，姿勢や身体の使い方についても配慮すること。

(4) 読譜の指導については，小学校における学習を踏まえ，♯や♭の調号としての意味を理解させるとともに，３学年間を通じて，１♯，１♭程度をもった調号の楽譜の視唱や視奏に慣れさせるようにすること。

第１学年　Ａ　表現　(1) 歌唱
題材名「拍の流れとフレーズ」　教材名「浜辺の歌」

【第１学年の目標】

(1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して，音や音楽への興味・関心を養い，音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。

(2) 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り，基礎的な表現の技能を身につけ，創意工夫して表現する能力を育てる。

(3) 多様な音楽のよさや美しさを味わい，幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる。

【第１学年の歌唱の指導事項】

ア　歌詞の内容や曲想を感じ取り，表現を工夫して歌うこと。

イ　曲種に応じた発声により，言葉の特性を生かして歌うこと。

ウ　声部の役割や全体の響きを感じ取り，表現を工夫しながら合わせて歌うこと。

【教材について】

「浜辺の歌」は，浜辺に打ち寄せる波の情景を表すような伴奏に支えられた，叙情的な歌詞と旋律をもつ楽曲である。例えば，拍子や速度が生み出す雰囲気，歌詞の内容と強弱の変化との関係などを感じ取り，フレーズのまとまりや形式などを意識して表現を工夫することなどを指導することが考えられる。

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項　→　ア

・叙情的な歌詞の内容や打ち寄せる波を表すような伴奏の特徴などを感じ取り，楽曲に対して表現したい思いや意図を持つ。

・楽曲をどう歌うかという思いや意図を表現するために，拍子や速度に着目して歌ったり，歌詞の内容と強弱の変化について気付いたりするとともに，それらを表現するために体の使い方等の技能を身に付ける。

【学習活動例】

学　習　活　動　例	〔共通事項〕との関連
○　歌詞から楽曲の情景を想像する。 ・教科書の注釈などを参考にしながら文語的な歌詞の内容を理解し，朝と夕の違いを理解する。 ・「どのような景色が広がっているのか」「歌詞の主人公がどんな気持ちでいるのか」などについて友達と意見交換しながら，曲へのイメージを持つ。 ・歌詞から，「静かな曲だと思う」「ゆったりした旋律ではないか」など，どのような曲かを想像する。 ○　歌に親しむ。 ・音楽を形づくっている要素を知覚感受しながら歌う。 ・速さの変化をいろいろ試す。	速度

○　楽曲の特徴をつかむ。 ・旋律が反復されている部分に注目させるなどして，楽曲の構成を知る。 ・八分の六拍子であることを押さえるとともに，それにのる旋律のフレーズのまとまりを感じ取る。 ・歌唱部分だけでなく，伴奏の特徴（似た旋律が波のように繰り返されているなど）にも気付かせる。 ○　歌詞や旋律など全体の印象から，この曲をどのように表現したいかという思いや意図を持つ。 ・拍子，速度，強弱，旋律の動き，歌詞の内容など，曲全体から受けた感じや心に残った部分などについて，自由に意見交換する。 ・旋律と伴奏の変化に気付かせ，曲の山場やゆったりした感じをつかませる。 ○　曲想の工夫をする。 ・音が半音ずつ上がっている部分（第３フレーズ，Ｇ，Ｇ♯，Ａ）に注目して歌う。 ・歌詞を基に，朝と夕の雰囲気の違いを生かした歌唱の仕方を工夫する。 ・歌詞と旋律，全体の響きなどを一体的に感じ取ることを通して，音楽を形づくっている要素の働きを見付ける。 ・楽譜に書かれている音楽記号を見ながら範唱を聴き，その記号が具体的にどう歌われているのかを感じ取る。 ・音楽記号がなぜそのように付けられているのか，それによって曲想がどのようになっているのかなどについて考えたり，意見交換したりする。 ・楽譜に書かれている音楽記号について調べ，名前や意味を知る。 ○　お互いに聴き合う。 ・曲想表現に気を付けながら，グループごとに歌ったり独唱したりする。 ・歌い手はどのような点に注意して歌うかを聴き手に知らせ，聴き手は注意した点が技能的に表現されているかを聴き取る。	旋律 拍子 旋律 構成 強弱 速度 フレーズ

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
・歌詞の言葉の意味，歌詞が表す情景や心情に関心を持ち，表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	・旋律，フレーズ，速度，拍子，強弱，構成などを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，歌詞の内容や曲想を感じ取って音楽表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図を持っている。	・歌詞の内容や曲想を生かした音楽表現をするために必要な技能（発声，言葉の発音，呼吸法，身体の使い方など）を身に付けて歌っている。

「拍」や「拍子」について

「拍」は，音楽を時間の流れの中でとらえる際の基本的な単位である。小学校の音楽科における「拍の流れ」の学習の上に立ち，例えば，拍が一定の時間的間隔をもって刻まれると拍節的なリズムが感じられることや，拍を意識することによってリズムや速度などの特徴を生かして表現を工夫することなどが考えられる。

「拍子」は，音楽を時間的なまとまりとしてとらえる際の手掛かりとなるものである。例えば，三拍子と六拍子の働きが生み出す特質や雰囲気の違いを感受して，表現や鑑賞の活動を行うことなどが考えられる。　中学校学習指導要領解説　音楽編 pp. 67-68

第２学年　Ａ　表現　(1) 歌唱
題材名「情景を表現しよう」　教材名「夏の思い出」

【第２学年及び第３学年の目標】

(1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して，音や音楽への興味・関心を高め，音楽によって生活を明るく豊かなものにし，生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。

(2) 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り，表現の技能を伸ばし，創意工夫して表現する能力を高める。

(3) 多様な音楽に対する理解を深め，幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。

【第２学年及び第３学年の歌唱の指導事項】

ア　歌詞の内容や曲想を味わい，曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと。

イ　曲種に応じた発声や言葉の特性を理解して，それらを生かして歌うこと。

ウ　声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して，表現を工夫しながら合わせて歌うこと。

【教材について】

「夏の思い出」は，夏の日の静寂な尾瀬沼の風物への追憶を表した叙情的な楽曲である。例えば，言葉のリズムと旋律や強弱とのかかわりなどを感じ取り，曲の形式や楽譜に記された様々な記号などをとらえて，情景を想像しながら表現を工夫することなどを指導することが考えられる。

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項　→　ア

・曲の流れや歌詞の内容から，「美しい日本の自然」のイメージを膨らませる。

・美しい自然や夏の日の思い出をしみじみと味わっている様子を，歌詞や旋律，強弱から感じ取って歌唱表現を工夫する。

夏の思い出

作詞　江間章子
作曲　中田喜直

一、夏がくれば　思い出す
はるかな尾瀬　遠い空
霧のなかに　うかびくる
やさしい影　野の小径
水芭蕉（みずばしょう）の花が　咲いている
夢みて咲いている　水の辺（ほと）り
石楠花色（しゃくなげいろ）に　たそがれる
はるかな尾瀬　遠い空

二、夏がくれば　思い出す
はるかな尾瀬　野の旅よ
花のなかに　そよそよと
ゆれゆれる　浮き島よ
水芭蕉の花が　におっている
夢みてにおっている　水の辺り
まなこつぶれば　懐かしい
はるかな尾瀬　遠い空

水芭蕉

【学習活動例】

学　習　活　動　例	〔共通事項〕との関連
○　歌詞の内容を理解しながら範唱や参考演奏を聴く。 ・これまでに美しいと感じた風景で，特に印象深かった点について話し合う。 ・曲の感じをつかみ，情景を想像しながら聴く。 ・どういう情景を歌ったものか，場面について話し合う。 ・尾瀬沼で水芭蕉の花が咲いている写真を見て，詩の内容と重ねる。	
○　旋律を覚える。 ・相対的な音程感覚を育てるために，移動ド唱法を用いて，楽譜を見て音高などを適切に歌う。 ・楽譜中の休符に着目して，正確に旋律を歌う。 ・***pp,p,mp***など，弱くてもしっかり響く声で歌えるようにする。	
○　言葉と旋律の関係を感じ取り，表現を工夫する。 ・抑揚や間を工夫しながら詞を朗読するなど，旋律の流れや休符を意識して歌唱する。	旋律
・**「水芭蕉の花が　咲いている　夢見て咲いている　水の辺り」**の細かな強弱記号などを確認し，**「咲いている」**や**「水の辺り」**の歌い方の工夫する。 **※*pp*が付いているから弱く歌うというのではなく，なぜその部分に記号が付けられたのかを考えたり，どの程度の音量，どのような音色，言葉の発音で歌ったらよいかを実際に試したりする活動も大切になる。**	強弱
・**「はるかな尾瀬　遠い空」（３～４小節目）**と**（最後）**は同じ歌詞であるが，旋律，強弱，フェルマータやテヌートなどによる違いを知覚し，曲想や歌詞に込められた思いを感じ取って表現を工夫する。	構成
○　適切な速度で歌ったり，伴奏の変化を味わったりしながら歌唱する。	速度
○　学級を二つに分けるなどして，互いの表現の仕方を聴き合う。	

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
・歌詞の内容や曲想に関心を持ち，音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	・音楽を形づくっている要素を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，歌詞の内容や曲想を感じ取って音楽表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図を持っている。	・歌詞の内容や曲想を生かした音楽表現をするために必要な技能（発声，言葉の発音，呼吸法，身体の使い方，読譜の仕方など）を身に付けて歌っている。

～作曲者の言葉から～

この曲を作曲した中田喜直は，このメロディをつけた当時，「尾瀬」に行ったことがなかったそうです。

「まだ行ってないんです。作曲の時は，詞からくるイメージだけでつくった。作詞の江間さんが女性だし，女性にぴったりくる叙情的で美しいメロディだけを考えていました。今の尾瀬は女性が多いんですってね。珍しく曲がぴったり合ったものです。」

（毎日新聞学芸部「歌をたずねて」音楽之友社 1983, p.200）

第３学年　Ａ　表現　(1) 歌唱
題材名「歌詞と音楽との関わり」　教材名「 花 」

【第２学年及び第３学年の目標】

(1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して，音や音楽への興味・関心を高め，音楽によって生活を明るく豊かなものにし，生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。

(2) 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り，表現の技能を伸ばし，創意工夫して表現する能力を高める。

(3) 多様な音楽に対する理解を深め，幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。

【第２学年及び第３学年の歌唱の指導事項】

ア　歌詞の内容や曲想を味わい，曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと。

イ　曲種に応じた発声や言葉の特性を理解して，それらを生かして歌うこと。

ウ　声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して，表現を工夫しながら合わせて歌うこと。

【教材について】

「花」は，「荒城の月」とともに滝廉太郎の名曲として広く歌われている。春の隅田川の情景を優美に表した楽曲である。例えば，拍子や速度が生み出す雰囲気，歌詞の内容と旋律やリズム，強弱とのかかわりなどを感じ取り，各声部の役割を生かして表現を工夫することなどを指導することが考えられる。

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項　→　ア，ウ

・七五調の歌詞と音楽との関わりを味わいながら，日本の代表的な歌曲を歌い味わう。

・二重唱の美しい響きや面白さを感じ取り，互いの声部の役割を理解しながら歌い合わせる。

花

作詞　武島羽衣
作曲　滝廉太郎

一、春のうららの　隅田川
のぼりくだりの　船人が
櫂（かい）のしずくも　花と散る
ながめを何に　たとうべき

二、見ずやあけぼの　露浴びて
われにもの言う　桜木を
見ずや夕ぐれ　手をのべて
われさしまねく　青柳を

三、錦おりなす　長堤に
くるればのぼる　おぼろ月
げに一刻も　千金の
ながめを何に　たとうべき

【学習活動例】

学　習　活　動　例	〔共通事項〕との関連
○　「花」の楽曲の感じをつかむ。 ・範唱を聴き，全体のイメージを感じ取る。 ・七五調のリズムや流れに気を付けて，詞を朗読する。 ・歌詞の内容を理解し，情景を想像する。	
○　「花」の主旋律を覚え，歌詞と旋律やリズムの関係に着目する。 ・階名唱をする。 ・ブレスの位置を確かめながら，歌詞で歌う。 ・２小節目の（**レドシラソー**）と６小節目の（**レドラシソー**）は，なぜ微妙に旋律が違うのか考える。 ・他にも似ているけど違う箇所を探し，どこか一つ選んで理由を考える。 （**「はるのうららの」**と**「ながめをなにに」**…十六部休符の違い） （**「すみだがわ」**と**「つゆあびて」**…旋律の違い）etc…	旋律 リズム
○　歌詞が表す情景と音楽との関わりを感じ取って，表現を工夫して歌う。 ・１，２，３番それぞれの出だしの強弱記号を確認し，その理由を考える。 ・３番の強弱の変化を確認し，**「おぼろ月」**が ***p*** になっている理由を考える。 ・**「げに一刻も」**のリズムが１，２番と違う理由を考える。	旋律 テクスチュア 強弱 リズム
○　「花」の副次的な旋律を覚える。 ・階名唱（移動ド唱法）をして，主旋律と合わせて歌う。 ・歌詞唱をして，主旋律と合わせて歌う。	
○　「花」の歌詞と音楽の関係についてまとめ，どのように歌いたいか自分なりの思いや意図を持って歌唱する。	
○　グループを編成（例：６人で１～３番を分担するなど）して，互いに二重唱を聴き合いながら，「花」を歌い味わう。	

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
・歌詞が表す情景，曲想や二重唱の響きに関心を持ち，曲にふさわしい音楽表現を工夫して合わせて歌う学習に主体的に取り組んでいる。	・旋律，リズム，テクスチュア，強弱などを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，歌詞が表す情景や心情，曲想や二重唱の響きを味わって曲にふさわしい音楽表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図を持っている。	・歌詞が表す情景，曲想や二重唱の響きを生かした，曲にふさわしい音楽表現をするために必要な発声や読譜の仕方などの技能を身に付けて歌っている。

「花」の歌詞は七五調でつくられています。滝廉太郎作曲の「荒城の月」「箱根八里」なども同じように七五調でつくられています。（ほかにも七五調の歌詞はたくさんあります。）

ですから，「花」の歌詞を「荒城の月」の旋律にのせて歌うこともできますし，その逆も可能です。そうやって歌ってみると，言葉はずれませんが，何かおかしさを感じて生徒から笑いが漏れると思います。歌詞の内容と旋律との関係が合わないということを知覚し，「桜がきれいに咲いているように感じない。」「昔のことを懐かしんでいる感じがしない。」といったことを感受することができるかもしれません。日本人だからこそ感じる，日本の心ではないでしょうか。

第３学年　Ａ　表現　(1) 歌唱
題材名「曲想の変化を生かして」
教材名「名づけられた葉」（新川和江 作詞／飯沼信義 作曲）

【第２学年及び第３学年の目標】

(1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して，音や音楽への興味・関心を高め，音楽によって生活を明るく豊かなものにし，生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。

(2) 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り，表現の技能を伸ばし，創意工夫して表現する能力を高める。

(3) 多様な音楽に対する理解を深め，幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。

【第２学年及び第３学年の歌唱の指導事項】

ア　歌詞の内容や曲想を味わい，曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと。

イ　曲種に応じた発声や言葉の特性を理解して，それらを生かして歌うこと。

ウ　声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して，表現を工夫しながら合わせて歌うこと。

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項　→　ア，イ，ウ

・歌詞の内容を理解し，共感しながら思いを込めて歌う。

・歌詞（言葉）と旋律の関わりを理解し，詞の情感を伝えるような表現を工夫する。

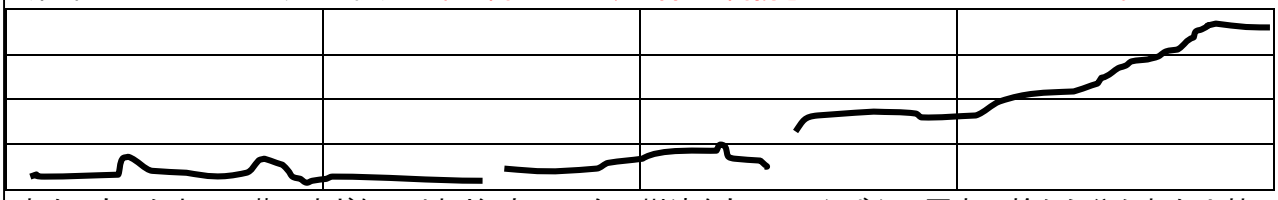
・ユニゾンとハーモニーの対比とその美しさや面白さなどを感じ取りながら歌う。

【学習活動例】

学　習　活　動　例	〔共通事項〕との関連
○　楽曲に対する関心を高める。 ・ポプラの葉（実物や実物大の造花等）や木の写真を見て，イメージを持つ。 ・ＣＤで範唱を聴き，リズム・速度・旋律・強弱，伴奏との関わり，歌詞から感じることなど，この楽曲の特徴で気付いたことや分かったこと，感じたことを書き出す。 ・歌詞を語のまとまりや言葉の響きに気をつけて音読し，歌詞や言葉が持つ抑揚やリズムを感じ取ったり，歌詞に描かれている情景や心情をイメージしたりして詞を味わう。	
○　前半部（**最初～載せられる葉はみな同じ**）の表現を工夫して歌う。 ・それぞれのパートが歌うのを聴き，自分のパートと同じ所，違う所に着目して，重なりやズレを感じ取りながら歌う。 ・音程を取りにくい箇所を中心に，移動ド唱法で歌うなどして美しいハーモニーを感じ取る。 ・歌詞の内容と休符や細かな強弱記号等の効果を知覚・感受しながら表現を工夫して歌う。 （例）・冒頭４小節の四分休符を付けたり無くしたりして違いを感じ取る。 ・同じ歌詞を２回繰り返すときの歌い方を工夫する。 ・歌詞の内容を考えながら前半の山場の表現を工夫する。	テクスチュア リズム 旋律 強弱

○　中間部（**わたしもいちまいの葉にすぎないけれど～わたしだけの名で朝に夕に**）の表現を工夫して歌う。 ・歌詞を読み，歌詞の内容を理解したりイメージを深めたりする。 ・旋律，強弱，テクスチュアなどを知覚・感受し，歌詞の内容と関わらせながら，音楽のエネルギーを線や色で表すなどして表現を工夫する。	旋律 強弱 テクスチュア

（**音楽のエネルギーグラフの例**）　**※音の高さではなく，気持ちの高揚をエネルギーとしてグラフにしていく。**



わたしもいちまいの葉にすぎないけれど　あつい血の樹液をもつ　にんげんの歴史の幹から分かれた小枝

・ユニゾンの部分を女声だけ，男声だけ，混声で歌ってみたり，「**人間の歴史の～**」のハーモニーの部分をユニゾンで歌ってみたりして，それぞれのよさを知覚・感受しながら歌い方を工夫していく。 ○　後半部（**ルルル～最後**）の表現を工夫して歌う。 ・（**ルルル**の部分の）各パートの旋律や伴奏を聴き合い，それぞれのよさや面白さを伝え合う。 ・（**ルルル**の部分の）アクセントやスタッカートを付けたり無くしたりして違いを知覚・感受し，表現を工夫する。 ・転調に着目し，その前後の歌詞の内容や音楽の特徴からその効果について考える。 ・歌詞を読み，歌詞の内容を理解したりイメージを深めたりする。 ・**女声「だから私…」 男声「名づけられた葉なのだから…」**のバランスを聴き合いながら，歌詞と旋律や強弱との関わりを考え，曲のクライマックスにふさわしい表現を工夫する。 ○　全体を通して歌い，多様な合唱による表現を楽しみながら歌う。 ・全体の流れや前半，中間，後半のつなぎ方などを意識しながら，自分たちの合唱表現を見つめ，よりよい合唱にしていく。	音色 リズム 旋律 テクスチュア 強弱

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
・歌詞の内容や曲想に関心を持ち，曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 ・声部の役割と全体の響きとの関わりに関心を持ち，音楽表現を工夫しながら合わせて歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	・音色，リズム，旋律，強弱，テクスチュアを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，歌詞の内容や曲想を味わったり，声部の役割と全体の響きとの関わりを理解したりして曲にふさわしい音楽表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図を持っている。	・歌詞の内容や曲想を生かした，曲にふさわしい音楽表現をするために必要な発声の仕方や言葉の発音，呼吸法などを身に付けて歌っている。 ・声部の役割と全体の響きとの関わりを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。

第２学年　Ａ　表現　(1) 歌唱　　Ｂ　鑑賞

題材名「歌舞伎音楽のよさや美しさを味わおう」教材名「長唄（ながうた）『勧進帳（かんじんちょう）』」

【第２学年及び第３学年の目標】

(1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して，音や音楽への興味・関心を高め，音楽によって生活を明るく豊かなものにし，生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。

(2) 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り，表現の技能を伸ばし，創意工夫して表現する能力を高める。

(3) 多様な音楽に対する理解を深め，幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。

【第２学年及び第３学年の歌唱の指導事項】	【第２学年及び第３学年の鑑賞の指導事項】
ア　歌詞の内容や曲想を味わい，曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと。 イ　曲種に応じた発声や言葉の特性を理解して，それらを生かして歌うこと。 ウ　声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して，表現を工夫しながら合わせて歌うこと。	ア　音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き，根拠をもって批評するなどして，音楽のよさや美しさを味わうこと。 イ　音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して，鑑賞すること。 ウ　我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴から音楽の多様性を理解して，鑑賞すること。

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項　→　歌唱　イ　　鑑賞　ア，イ

・歌舞伎音楽の特徴を理解し，日本の伝統に親しむ。

・歌舞伎における長唄の役割や表現効果を理解しながら鑑賞する。

・長唄の声の出し方や特徴を感じ取りながら歌唱表現する。

【学習活動例】

学　習　活　動　例	〔共通事項〕との関連
○　歌舞伎や「勧進帳」に興味・関心を持つ。 ・舞台の様子，見得，衣装，隈取（くまどり）（化粧），楽器の演奏や歌い方など，生徒が興味を持ちそうな要素を取り上げて歌（音楽）・舞（舞踊）・伎（演技）の特徴をつかむ。 ・「勧進帳」のあらすじを理解する。 ・社会科の学習と関連付けながら，歌舞伎が発達した歴史的背景を調べる。 ○　「勧進帳」のあらすじと実際の舞台の様子がつながるよう映像を視聴する。 ・「富樫（とがし）の登場場面」「義経一行の登場場面」「勧進帳を読みあげる場面」「弁慶が義経を討つ場面」「『延年の舞』を舞う場面」「飛び六法で退場する場面」など，あらすじがわかりやすい場面を選び鑑賞する。 ・あらすじを確認しながら「勧進帳」の舞台の流れを理解する。	

○　義経一行が登場する場面の音楽の特徴を感じ取る。 ・「旅の衣は篠懸の～海津の浦に着きにけり」の音楽（長唄）がどのように演奏されているか，唄方・三味線方・囃子方の演奏の様子を聴き，唄い方の特徴や雰囲気を感受する。	音色 旋律 リズム テクスチュア

	笛	小鼓	大鼓	三味線	唄い方の特徴
（謡がかり）　旅の衣は篠懸の～	○	○	○		２回繰り返す時の唄い方が違う。「よお～っ」多い。
（下記がかり）時しも頃は如月の～				○	声の伸ばし方が面白い。三味線が盛り上げて伴奏。
月の都を立ち出て～				○	複数の唄方と三味線ではっきりした音楽になった。
（寄せの合方）		○	○	○	何かが始まりそうという期待が高まる音楽。
これやこの～海津の浦に着きにけり	○	○	○	○	複数で唄い力強いが，笛の音が不気味な感じ。

○　長唄「勧進帳」の**♪これやこの～逢坂の山かくす♪（又は，上の表中から任意に選んだ箇所）**の部分を聴いたり唄ったりして，声の出し方の特徴や旋律の動きを感じ取る。 ・ＣＤを聴きながら合わせて唄ったり，音の高低や言葉のつながり方を絵譜に表したりしながら確認する。 ・音色，節回し，母音の伸ばし方等を意識して聴き，雰囲気と特徴をワークシートにまとめる。 ・長唄らしく唄うにはどうしたらよいか，自分の考えをワークシートにまとめながら，声の出し方や言葉の発音，身体の使い方などを工夫していく。（音の高さは生徒の実態に合わせる。）	音色 旋律 リズム
○　長唄の特徴を物語や演出などと関連付けて理解し，自分なりに批評して，歌舞伎音楽を鑑賞する。 ・あらすじを理解するために視聴した場面を中心に，歌舞伎「勧進帳」の映像を鑑賞する。 ・歌舞伎における音楽の役割とよさについて，長唄と物語の内容や進行，演出などと一体となって効果的に表現されていることを具体的に挙げながらワークシートにまとめる。	音色 旋律 リズム テクスチュア 速度

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
・長唄の発声や言葉の特性に関心を持ち，それらを生かして唄う学習に主体的に取り組もうとしている。	・長唄の音色，節回し，リズムを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，長唄にふさわしい発声や言葉の特性を理解して，それらを生かした音楽表現を工夫し，どのように唄うかについて思いや意図を持っている。	・長唄にふさわしい声や言葉の特性を生かした音楽表現をするために必要な発声，言葉の発音，身体の使い方を身に付けて唄っている。

音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
・長唄の音色，節回し，強弱と曲想との関わり，長唄の特徴と物語や演出などとの関連に関心を持ち，鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	・長唄の音色，節回し，強弱を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを理解するとともに，長唄の特徴を物語や演出などと関連付けて理解し，根拠を持って批評するなどして，歌舞伎音楽のよさや美しさを味わって聴いている。

「我が国の伝統的な歌唱」とは…

我が国の各地域で歌い継がれている仕事歌や盆踊り歌などの民謡，歌舞伎(かぶき)における長唄(ながうた)，能楽における謡曲，文楽における義太夫節(ぎだゆうぶし)，三味線や箏(そう)などの楽器を伴う地歌・箏(そう)曲など，我が国や郷土の伝統音楽における歌唱を意味している。

教材の選択に当たっては，これらの伝統的な歌唱のうち，地域や学校，生徒の実態を考慮して，伝統的な声の特徴を感じ取れるものを選択していくことになる。伝統的な声の特徴を感じ取るためには，例えば，発声の仕方や声の音色，コブシ，節回し，母音を延ばす産字(うみじ)などに着目することが考えられる。生徒が実際に歌う体験を通して，伝統的な声の特徴を感じ取ることができるよう，地域や学校，生徒の実態を十分に考慮して適切な教材を選択することが重要である。

指導に当たっては，例えば，声の音色や装飾的な節回しなどの旋律の特徴に焦点を当てて，比較して聴いたり実際に声を出したりして，これらの特徴を生徒一人一人が感じ取り，伝統的な歌唱における声の特徴に興味・関心をもつことができるように工夫することが大切である。その際，視聴覚機器などを有効に活用したり，地域の指導者や演奏家とのティーム・ティーチングを行ったりすることも考えられる。

中学校学習指導要領解説　音楽編 p. 34

歌唱共通教材の指導の一例

「赤とんぼ」は，日本情緒豊かな曲として，人々に愛されて親しまれてきた楽曲である。例えば，拍子や速度が生み出す雰囲気，旋律と言葉との関係などを感じ取り，歌詞がもっている詩情を味わいながら日本語の美しい響きを生かして表現を工夫することなどを指導することが考えられる。

「荒城の月」は，原曲と山田耕筰の編作によるものとがある。人の世の栄枯盛衰を歌いあげた楽曲である。例えば，歌詞の内容や言葉の特性，短調の響き，旋律の特徴などを感じ取り，これらを生かして表現を工夫することなどを指導することが考えられる。

「花の街」は，希望に満ちた思いを叙情豊かに歌いあげた楽曲である。例えば，強弱の変化と旋律の緊張や弛緩との関係，歌詞に描かれた情景などを感じ取り，フレーズのまとまりを意識して表現を工夫することなどを指導することが考えられる。

「早春賦」は，滑らかによどみなく流れる旋律にはじまり，春を待ちわびる気持ちを表している楽曲である。例えば，拍子が生み出す雰囲気，旋律と強弱とのかかわりなどを感じ取り，フレーズや曲の形式を意識して，情景を想像しながら表現を工夫することなどを指導することが考えられる。

（中学校学習指導要領解説音楽編 pp. 59-60 より）
他の３曲は，各教材のページに掲載しています。

ハンドサインと移動ド唱法

１．ハンドサインと内的聴感

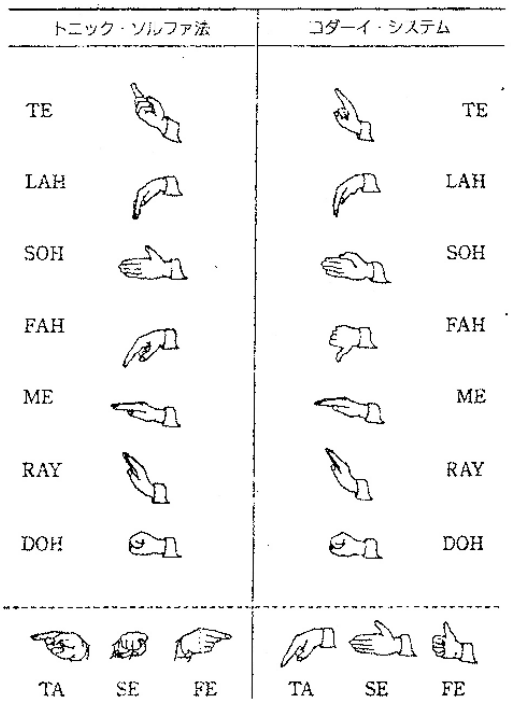
移動ド唱法の最大のメリットは、「相対的な音感の獲得をとおして良い耳をつくる」ことであるが、ここでいう「良い耳」とはたんに聴覚が優れているということではなく、ある音を音楽的文脈の中で関係性をもって感じ取ることのできる能力のことを指している。

ハンガリーの作曲家で教育者でもあるコダーイ・ゾルターン（1882-1967）は、ジョン・カーウェン（1816-1880）によって考案されたハンドサインを改良して子どもの教育に用いた（図１）。コダーイの理論にもとづく音楽教育では、子どもの内的聴感[1)]の発達を促すことが中心に据えられる。この内的聴感なくしては、正確な音程で歌ったり演奏したりすることができないばかりか、音楽を聴いて楽しむことさえおぼつかない。したがって、内的聴感こそが読譜指導以前の重要な音楽教育の基礎・基本であるといえる。

ハンドサインは、ドレミのシラブルとともに歌いながら用いられる。音楽の授業で用いるときには、教師は自分の顔の前に手を出し、子どもたちと常にアイコンタクトをとる。子どもたちは、教師の手を常に注視している。そして、ひとつの音を歌っている間に教師の手が次の音を示すので、子どもたちの頭の中には自分が出している声とハンドサインによって頭の中で想起する音が同時に鳴ることになる。

ハンドサインで簡単なメロディーを即興的につくったり子どもたちがすでに知っている歌を用いたりして、慣れてきた頃に、ハンドサインを見ながら声を出さないで（頭の中だけで）歌う「サイレントシンギング」を加えていく。こうして子どもたちは自らの視覚と音程感覚を連動させながら内的聴感を実感するようになる。そして、この後にトニックソルファ譜（リズム譜の下にドレミを書いた楽譜）などを用いながら徐々に移動ド唱法による視唱に入るとよい。

図１　ハンドサイン[2)]



２．シャープはシ、フラットはファ

「いちばん右側のシャープ（♯）はシ、いちばん右側のフラット（♭）はファ」

移動ド唱法による歌唱指導を行うにあたって、子どもたちに説明すべきことはこれだけだ。階名で歌うことを「楽典の勉強」だと思っている先生もいるようだが、ドレミはもともと「音楽の学習をやさしくするために」生まれたものであって、音楽理論の説明のためにつくられたものではない。

もっとも、「音楽のしくみ」の多くがこの階名に包含されていると言っても過言ではない。その歌がドで終わればそれは長調であり、その歌がラで終わればそれは短調である。そして、そのドの音名がト（G）であればト長調（G Major）で、そのラの音名がホ（E）であればホ短調（e minor）ということになる。また、主要三和音（主和音、下属和音、属和音）を聴き取ったり曲の終わる感じ（完全終止）や続く感じ（半終止、不完全終止）を感じ取ったりするよりどころになるのも階名である。

中学校学習指導要領の「第３　指導計画の作成と内容の取り扱い」に「相対的な音程感覚などを育てるために、適宜、移動ド唱法を用いること。」と明記されているのも、こうした音同士の相対的な関係性に着目し、音と音とのつながり方をとらえて、フレーズなどを意識した音楽表現を工夫する能力を養うことを狙っているからである。

３．無意識の意識化について

子どもたちは、生まれて間もなくマザリーズ[3]によってピッチマッチ（音の高さを相手に合わせること）の能力を備え、幼児期の遊びの中でその能力を開花させる。そして、これまでの経験の中で多くの愛唱歌を持ち、音楽を聴くことによって無意識に「音楽のしくみ」のパターン記憶を蓄えている。

学校教育では、そうした子どもたちの無意識的な経験や知識を組織化し、自らの意志でそれらを操作しようとする能力を計画的に育てることが必要となる。こうして意識下に置かれた「音楽のしくみ」は、子どもたちを音楽的に育てるばかりでなく、自然科学や社会科学における客観的で創造的なものの考え方や価値判断能力をも育て、ひとりひとりの明るい未来をつくるのである。

（北山敦康）

１）「内的聴感」とは、自分の頭の中で音を思い浮かべることのできる音楽的能力のこと。「内的聴覚」ともいう。

２）東川清一「読譜力 伝統的な『移動ド』教育システムに学ぶ」（春秋社、2005）p.159

３）母親が乳幼児に話しかけるときの言葉で、普通の会話よりピッチがやや高めで、なかば歌うようなゆっくりした話し方のこと。乳幼児の言葉の獲得や情緒をはぐくむ重要な養育行動のひとつとされている。

＜Ａ　表現＞

(2) 器楽の活動を通して

＊中学校学習指導要領「第４章　指導計画の作成と内容の取扱い　２　内容の取扱いと指導上の配慮事項」より

(2) 器楽の指導については，指導上の必要に応じて和楽器，弦楽器，管楽器，打楽器，鍵盤楽器，電子楽器及び世界の諸民族の楽器を適宜用いること。なお,和楽器の指導については，３学年間を通じて１種類以上の楽器の表現活動を通して，生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わうことができるよう工夫すること。

(3) 我が国の伝統的な歌唱や和楽器の指導については，言葉と音楽との関係，姿勢や身体の使い方についても配慮すること。

(4) 読譜の指導については，小学校における学習を踏まえ，♯や♭の調号としての意味を理解させるとともに，３学年間を通じて，１♯，１♭程度をもった調号の楽譜の視唱や視奏に慣れさせるようにすること。

第１学年　Ａ 表現　(2) 器楽
題材名「日本の楽器の響き」　教材名「ほたるこい（篠笛）」

【第１学年の目標】

(1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して，音や音楽への興味・関心を養い，音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。

(2) 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り，基礎的な表現の技能を身に付け，創意工夫して表現する能力を育てる。

(3) 多様な音楽のよさや美しさを味わい，幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる。

【第１学年の器楽の指導事項】

ア　曲想を感じ取り，表現を工夫して演奏すること。

イ　楽器の特徴をとらえ，基礎的な奏法を身に付けて演奏すること。

ウ　声部の役割や全体の響きを感じ取り，表現を工夫しながら合わせて演奏すること。

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項　→　イ

・篠笛がよく響く息の吹き込み角度を見付けたり，指打ちによる音色の違いを感じ取ったりして，篠笛の音色のよさを捉える。

・運指や指打ちなど，篠笛の初歩的な奏法を身に付ける。

【学習活動例】

学　習　活　動　例	〔共通事項〕との関連
○　篠笛に息を吹き込み，どのようにしたら音が出るかを試す。	
○　篠笛の奏法を理解する。 ・教科書の説明を見たり，教師の説明を聴きながら，姿勢や構え，指孔のふさぎ方，口のあて方など，基本的な奏法を知る。 ・楽器の吹き方を説明した動画などを視聴する。 ・姿勢や構え方に気を付け，音がよく響くように吹き込む角度を探す。 ※息を吹き込む角度を意識させるために，指孔（ゆびあな）を押さえず，篠笛を動かしやすい状態にしておく。	旋律 音色
○　「ほたるこい」の旋律を演奏する。 ・五，六，七の運指を覚え，音を鳴らしてみる。 ・運指の数字を旋律に合わせて歌ったり，唱歌（しょうが）したりしながら，指を一緒に動かす。 ・教師と生徒，生徒と生徒による交互奏やグループでのリレー奏や輪奏など，繰り返し演奏することによって，篠笛の演奏や教材に親しむ。	リズム

○　和楽器ならではの奏法（指打ち）を知るとともに，日本の音楽表現のよさや面白さに気付く。 ・同じ音が続く時，指打ちを使うことを理解する。 ・指打ちをする箇所を確認する。 ・指打ちした場合と，タンギングした場合とでの，音の表情の違いについて話し合う。 ○　指打ちの奏法を取り入れながら「ほたるこい」を演奏する。 ・指打ちのタイミングや速さをいろいろ試しながら演奏する。 ・グループで演奏形態（独奏，重奏，リレー奏，輪奏等）を考えながら，発表し合う。 ○　「ほたるこい」以外の簡単な旋律の演奏に取り組む。 **（例）「たこたこあがれ」「なべなべそこぬけ」「ゆうやけこやけ」「かごめかごめ」** ○　地域の祭りの囃子（はやし）など，郷土の音楽について調べる。	音色

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
・篠笛の特徴（指打ちや息の入れ方など）に関心を持ち，基礎的な奏法（口の形や楽器の構え方の角度など）で演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。	・音楽を形づくっている要素を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，篠笛の特徴を捉えた音楽表現（指打ちのタイミングとスピードや息の入れ方など）を工夫し，どのように演奏するかについて思いや意図を持っている。	・篠笛の特徴を捉えた音楽表現（指打ちのタイミングとスピードや息の入れ方など）をするために必要な，基礎的な奏法（口の形や楽器の構え方の角度など）などの技能を身に付けている。

「我が国の伝統的な歌唱や和楽器の指導」について

言葉と音楽との関係においては，日本語に注目する必要がある。「あ」や「お」，あるいは「か」や「さ」などの音は，すでに固有の響きをもっており，それらが組み合わさって単語となり，言葉となって日本語特有の響きが生まれてくる。言葉のまとまり，リズム，抑揚，高低アクセント，発音及び音質といったものが直接的に作用し，旋律の動きやリズム，間（ま），声の音色など，日本的な特徴をもった音楽を生み出す源となっている。このことは，歌唱に限らない。唱歌（しょうが）に見られるように，楽器の演奏においても言葉の存在が音楽と深くかかわっている。

中学校学習指導要領解説　音楽編 p. 62

「姿勢や身体の使い方」について

姿勢や身体の使い方においては，腰の位置をはじめとした姿勢や呼吸法などに十分な配慮が必要となる。例えば民謡は，その歌の背景となった生活や労働により強く性格付けられており，声の出し方や身体の動きなどに直接間接に表れている。長唄や地歌，箏や三味線などは，基本的に座って演奏することによって伝統的な音楽の世界が現れてくる。また，篠笛や尺八の演奏をはじめ，声や楽器を合わせる際の息づかいや身体の構えが，旋律の特徴や間を生み出している。声を出す場合も，楽器を演奏する場合も，それに適した身体の使い方が大切にされてきた。

このように，我が国の伝統的な歌唱や和楽器の指導において，言葉と音楽との関係に注目し，姿勢や身体の使い方に配慮することは，我が国の伝統や文化を理解するための大切な基盤にもなっていく。

中学校学習指導要領解説　音楽編p. 63

第１学年　Ａ　表現　(2) 器楽
題材名「箏（こと）に触れよう」　教材名「さくらさくら（二重奏）」

【第１学年の目標】

(1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して，音や音楽への興味・関心を養い，音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。

(2) 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り，基礎的な表現の技能を身につけ，創意工夫して表現する能力を育てる。

(3) 多様な音楽のよさや美しさを味わい，幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる。

【第１学年の器楽の指導事項】

ア　曲想を感じ取り，表現を工夫して演奏すること。

イ　楽器の特徴をとらえ，基礎的な奏法を身に付けて演奏すること。

ウ　声部の役割や全体の響きを感じ取り，表現を工夫しながら合わせて演奏すること。

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項　→　イ，ウ

・箏の構造やいろいろな奏法を知り，箏固有の音色や響き，よさなどを捉えて演奏する。

・各声部の役割を大切にして，表現を工夫しながら合わせて演奏する。

【学習活動例】

学　習　活　動　例	〔共通事項〕との関連
○　箏の構造や基礎的な奏法を身に付ける。 ・爪の付け方，姿勢や構え方，弦の名前を理解する。 ・弦の弾き方など，基礎的な奏法を知る。 ・親指だけで「巾為斗十（送り）九八七六（送り）五四三二一」のように，右手の小指や薬指を前に送りながら親指で弦を弾く奏法を身に付ける。 ・親指だけで「一二三四（引き）五六七八（引き）九十斗為巾」のように，右手の小指や薬指を手前に引きながら親指で弦を弾く奏法を身に付ける。 ※一本奥の弦にあてて止める感覚を身に付けさせ，しっかりした音が出せるようにする。 （弦の上に指が浮くような弦の弾き方にならないよう留意する。）	音色
○　「さくらさくら」の旋律を演奏する。※平調子に調弦しておく ・「さくらさくら」の初めの音を伝え，旋律の探り弾きを楽しむ。 ・縦書きの楽譜（家庭式縦譜）を見ながら「さくらさくら」の旋律を弦名で歌ったり箏で演奏したりする。 ・「さくらさくら」は平調子でつくられていることを知り，柱の役割や平調子の調弦法を理解する。 ※柱をずらしたり，他の調子に調弦したりして「さくらさくら」を弾いてみる。 ・押し手（強押し・弱押し）の違いを聴き取り，押し手の加減を調整する。 ・平調子でつくられた他の曲を聴き，平調子の音楽の響きを味わう。	旋律 音階

○　箏のいろいろな奏法（合せ爪，スクイ爪，流し爪，ピッツィカート，トレモロ）を身に付け，二重奏に挑戦する。 ・基本的な親指による奏法とスクイ爪やピッツィカートによる奏法の音色や雰囲気の違いを感じ取りながらそれぞれのパートの特徴をつかむ。 ・流し爪やトレモロを入れたときと入れないときの雰囲気の違いを感受し，効果的に演奏できるよう，タイミングや長さなど音楽表現を工夫する。 ・パート１とパート２に分かれて二重奏を行い，それぞれが同じリズムで合うところとずれて互いに掛け合うところの確認をしながら，合わせて演奏する。 ・互いの演奏を聴き合いながら，タイミングや音のバランス，速度などを工夫し，主旋律だけで演奏した時とは違う演奏表現を楽しむ。 ○　箏の発表会を行う。 ・人数や箏の面数により，発表の仕方を工夫する。 ・どんなことを一番大事にして演奏するのか伝えてから発表したり，ワークシートに表したりする。	音色 テクスチュア 速度

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
・箏固有の音色や奏法に関心を持ち，基礎的な奏法で演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 ・声部の役割や互いの響きに関心を持ち，音楽表現を工夫しながら合わせて演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。	・箏の音色，平調子による旋律，テクスチュアを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，楽器の特徴を捉えたり声部の役割を感じ取ったりして音楽表現を工夫し，どのように合わせて演奏するかについて思いや意図を持っている。	・楽器の特徴を捉え，声部の役割を生かした音楽表現をするために必要な，基礎的な奏法を身に付けて演奏している。

「和楽器の指導について」

箏，三味線，尺八，篠笛，太鼓，雅楽で用いられる楽器などの和楽器については，その指導を更に充実するため，中学校第１学年から第３学年までの間に１種類以上の和楽器を扱い，表現活動を通して，生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わうことができるよう工夫することを示している。生徒が実際に演奏する活動を通して，音色や響き，奏法の特徴，表現力の豊かさや繊細さなどを感じ取ることは，我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わうことにつながっていくと考えられる。

中学校学習指導要領解説　音楽編 p. 61

箏を弾いている時に隣で弦の名前を歌ってあげるなど，箏一面を二人で交替しながら使用するペア学習が効果的です。二重奏を行う場合は４人１組で行うとよいでしょう。

また，爪はなるべく指の太さに合うものを選ばせましょう。「さくらさくら」の主旋律を演奏する場合など，親指に爪をつけるだけで弾ける場合もありますが，人さし指や中指に付けるといろいろな奏法で弾くことが可能となり，表現の幅が広がります。

中学生の男子になると，かなり指の太い生徒もいますので，様々なサイズを１クラス分＋αの余裕を持って揃えておくとよいでしょう。

第２学年　Ａ　表現　(2) 器楽
題材名「リコーダーの響きを楽しもう」
教材名「ソナタ K.331　（モーツァルト）」

【第２学年及び第３学年の目標】

(1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して，音や音楽への興味・関心高め，音楽によって生活を明るく豊かなものにし，生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。

(2) 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り，表現の技能を伸ばし，創意工夫して表現する能力を高める。

(3) 多様な音楽に対する理解を深め，幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。

【第２学年及び第３学年の器楽の指導事項】

ア　曲想を味わい，曲にふさわしい表現を工夫して演奏すること。

イ　楽器の特徴を理解し，基礎的な奏法を生かして演奏すること。

ウ　声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して，表現を工夫しながら合わせて演奏すること。

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項　→　ア，イ

・旋律の動きの特徴や，同じリズムで重なり合う音色の響きのよさを感じ取りながら，思いや意図を持って演奏する。

・リコーダーにふさわしい音色や奏法（レガート奏法など）を工夫して演奏する。

【学習活動例】

学　習　活　動　例	〔共通事項〕との関連
○　範奏を聴いて曲想をつかんだり，演奏に対する思いを持ったりする。 ・曲に合わせて手を動かすなど体の動きを用いながら，八分の六拍子にのったゆったりした旋律を感じ取る。 ・旋律や音色から感じ取った曲のイメージについて，友達と意見交換する。 ・リコーダーの音色そのものや二つの旋律の響きの重なり合いのよさを味わう。	旋律 音色
○　奏法に気を付けながら演奏する。(楽譜→p. 96 参照) ・「La La La～」やドレミで歌い，旋律の動きやブレスの場所を理解する。 ・イメージする音色や正しいリズムを表現するため，タンギングや息の強さ，音の伸ばし方などに注意しながら演奏する。 ・アーティキュレーションをいろいろ試し，曲想にふさわしいものを選ぶ。 ・主旋律と副次的な旋律の音量のバランスや強弱を意識して演奏する。	
○　楽曲の特徴をつかむ。 ・曲を聴いたり楽譜を見たりしながら，拍子，速度，旋律の動きなどの曲の特徴を理解する。 ・二つの旋律が似たリズムで重なっていることに気付くとともに，繰り返されている部分のあることに気付く。	リズム テクスチュア 構成

・教師の動きを見てまねたり楽譜を見たりしながら旋律のリズム打ちをして、音の動きを覚えるとともに，手の打ち方を工夫してフレーズを感じ取らせる。 ○　曲想の工夫をする。 ・フレーズ感を出せるよう，ブレスやアーティキュレーションを工夫する。 ・教師がフレーズを変えて演奏し，聴き比べて印象の違いを感じ取らせることで、旋律のまとまりを意識させたり，自分たちはどう表現するか考えさせたりする。 ・二重奏などの場合には，ペアやグループで，どんな表現をしたいか共通のイメージを持つとともに，そのためにどういう工夫をするか話し合う。 ・グループやペアの演奏をする中で速度をいろいろ試し，自分たちのイメージする表現に近づける。 ○　お互いに聴き合う。 ・曲想表現に気を付けながら，ペアやグループごとに演奏する。 ・どのような点に注意して演奏するかを聴き手に知らせ，聴き手は注意した点が技能的に表現されているかを聴き取る。	速度 強弱

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
・ゆったりと優雅な曲想を表現するために，リコーダーの音色に関心を持ったり奏法を工夫して演奏したりする学習に主体的に取り組もうとしている。	・リコーダーの音色，旋律の動き，リズム，構成などを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，レガート奏法など曲にふさわしい音楽表現を工夫し，どのように演奏するかについて思いや意図を持っている。	・曲想を生かした，フレーズを意識した演奏のために，息の強さやブレスの場所に気を付け，レガート奏法など必要な技能を身に付けて演奏している。
・リコーダーの特徴や，レガートなど基礎的な奏法に関心を持ち，それらを生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。	・リコーダーの音色，旋律の動き，リズム，構成などを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，リコーダーの基礎的な奏法を生かした音楽表現を工夫し，どのように演奏するかについて思いや意図を持っている。	・リコーダーの特徴，基礎的な奏法を生かした音楽表現をするために，奏法，呼吸法など必要な技能を身に付けて演奏している。

表現の活動において，子どもたちにどのように演奏したいかなどの思いや意図を持たせることが大切とされています。「どのように工夫して表現しようか」といった話合い活動は授業の中でよく行われていることですが，全体あるいはペアやグループとしてのイメージの共有化については不十分なまま活動が進められている場合があります。

個々の思いや意図は当然持たせますが，一つの楽曲を一緒に表現するのですから，個々の考えを基に「少人数あるいは全体としてどう表現するか」をきちんと押さえる必要があります。

また言葉で伝え合うだけでなく，実際に音（声）を出し試行錯誤しつつ表現方法を探っていくことで，イメージを表現するための技能的な面も追究することができます。

教師は，表現したい思いはあっても具体的にどうすればいいのかが分からないでいる子どもたちに，いかにヒントを与えられるか・具体的な提示ができるかを心掛け，子どもたちが知覚・感受したものについて思考・判断し，表現することにつなげることができるようにしましょう。

第３学年　Ａ　表現　(2) 器楽
題材名「楽器の特徴を生かしたリズム伴奏を工夫しよう」
教材名「テキーラ」(C.リオ 作曲／高山直也 編曲)

【第２学年及び第３学年の目標】

(1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して，音や音楽への興味・関心を高め，音楽によって生活を明るく豊かなものにし，生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。

(2) 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り，表現の技能を伸ばし，創意工夫して表現する能力を高める。

(3) 多様な音楽に対する理解を深め，幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。

【第２学年及び第３学年の器楽の指導事項】

ア　曲想を味わい，曲にふさわしい表現を工夫して演奏すること。

イ　楽器の特徴を理解し，基礎的な奏法を生かして演奏すること。

ウ　声部の役割や全体の響きとのかかわりを理解して，表現を工夫しながら合わせて演奏すること。

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項　→　ア，イ，ウ

・ラテン音楽に親しみ，打楽器のリズムが生み出す特徴に関心を持ち，意欲的に器楽合奏に取り組む。

・楽器の特徴や曲の構成，曲想を捉え，この曲にあったリズム伴奏を工夫する。

・リズムや打楽器の音色の組み合わせや重なりを生かしてグループアンサンブルをする。

【学習活動例】

学　習　活　動　例	〔共通事項〕との関連
○　「テキーラ」の演奏を聴いたり映像を見たりしながら，曲の特徴をつかむ。 ・大きく三つの部分で構成されていることを理解する。 ・同じ旋律やリズムが繰り返されていることを理解する。 ・様々な打楽器が演奏を盛り上げていることを感じ取る。	旋律 リズム
○　ラテンパーカッション等でリズムパターンを演奏し，楽器の特徴を生かしたリズムパターンを選択する。 ・いくつかのリズムパターンを提示し，それぞれのリズムを手で打ってリズムパターンに慣れる。 ・Ａ（前奏及び後奏），Ｂ（第１旋律），Ｃ（第２旋律）の各旋律に合わせて，各リズムパターンを手で打ち，それぞれの雰囲気の違いを感じ取る。 ・範奏を参考に，リズムパターンに合う音色の楽器を探す。 ・自分の選んだ楽器とリズムパターンで「テキーラ」のリズム伴奏をする。	音色 リズム
○　グループに分かれ，リズム伴奏を工夫していく。 ・バランスを考えながら担当楽器とパートを決める。 ・Ａ Ｂ Ｃ に合うリズムパターンと楽器の組み合わせを決める。 ・お互いのグループの演奏を聴いたり，自分たちの演奏を録音したりしながら，表現を工夫する。	リズム 音色 テクスチュア 構成

〈発展的な学習〉 ○　A B Cの旋律を楽器で演奏する。 ・Sop.リコーダー，Altoリコーダーや鍵盤ハーモニカ，キーボード等の旋律楽器でリズムの持つ特徴を生かした演奏やアーティキュレーションを生かした奏法を工夫する。 ・希望者にはキーボード＋低音楽器（ピアノパート）を担当させる。 ○　グループごとにリズム伴奏を発表し合ったり，旋律パートなども演奏しながら学級全体で合奏したりして，ラテン音楽の楽しさを味わう。	旋律 リズム

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
・ラテン音楽の曲想に関心を持ち，曲にふさわしい音楽表現を工夫して演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 ・打楽器固有の音色や響き，その初歩的な演奏方法に関心を持ち，それらを生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 ・各打楽器の役割と全体の響きとの関わりに関心を持ち，音楽表現を工夫しながら合わせて演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。	・リズム，音色，テクスチュアを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，曲想を味わって曲にふさわしい音楽表現を工夫し，どのように演奏するかについて思いや意図を持っている。 ・リズム，音色，テクスチュア，構成を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，打楽器固有の音色や響きを理解し，その初歩的な演奏方法を生かした音楽表現を工夫したり，各打楽器の役割と全体の響きとの関わりを理解して音楽表現を工夫したりするなど，どのように合わせて演奏するかについて思いや意図を持っている。	・ラテン音楽の曲想を生かした，曲にふさわしい音楽表現をするために必要な打楽器の奏法を身に付けて演奏している。 ・打楽器固有の音色や響き，初歩的な演奏方法を生かした音楽表現するために必要な奏法を身に付けて演奏している。 ・各打楽器の役割と全体の響きとの関わりを生かした音楽表現をするために必要な奏法を身に付けて演奏している。

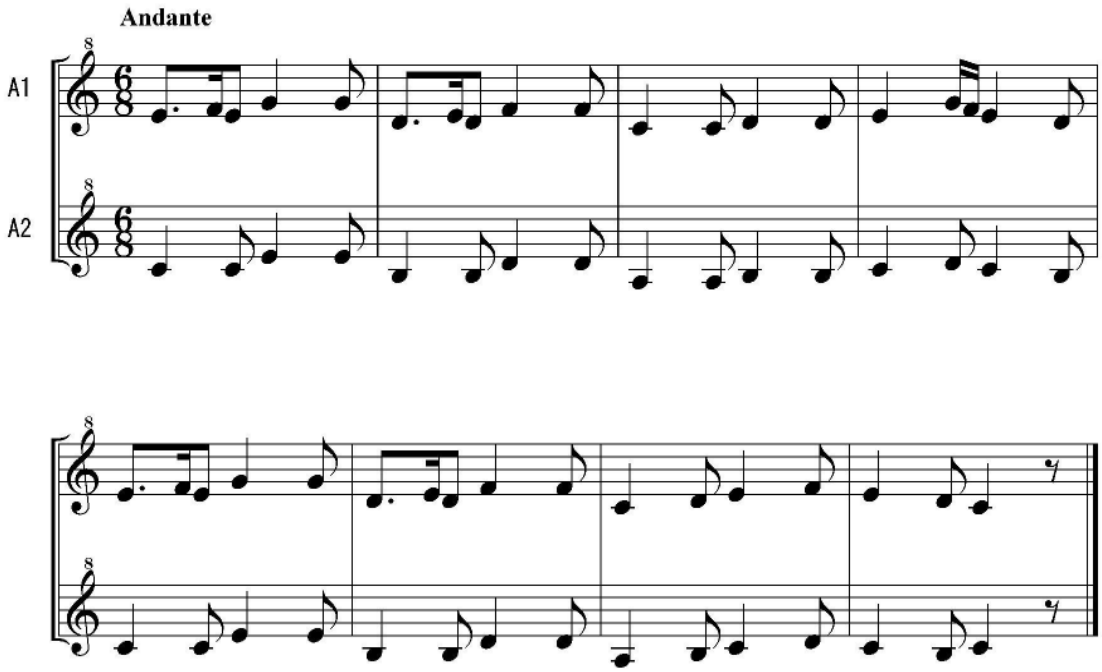
「指導と評価の一体化」について

本事例での評価規準例は，打楽器のリズム伴奏を演奏する活動を対象に設定しています。最終的には，旋律楽器を交えて合奏できればより楽しい活動になると思いますが，本題材で身に付けさせたい力は「楽曲の特徴や曲の構成，曲想を捉え，この曲にあったリズム伴奏を工夫すること」ですので，評価するポイントを絞っています。生徒が主体的に取り組んだ旋律楽器の演奏に関することは評価の対象にしていません。（時数の関係であまり題材が大きく膨らまないよう配慮しました。）

しかし，この教材は，前奏や後奏の旋律は２音だけで構成されていたり，A～Cのどの部分も繰り返しが多く使われていたりするなど，楽器の演奏を苦手としている生徒にもリズムの特徴を生かした演奏を体感させることができるようになっています。ソプラノリコーダーや鍵盤ハーモニカはほとんどの小学校で扱っており，上手に活用すれば（練習にあまり時間を費やさなくても）合奏する楽しさを味わうことが容易となります。生徒の実態を知り，楽器やパートの選択を工夫することによって，どの生徒も合奏に参加でき，合わせて演奏する喜びを中学校でも味わわせたいものです。

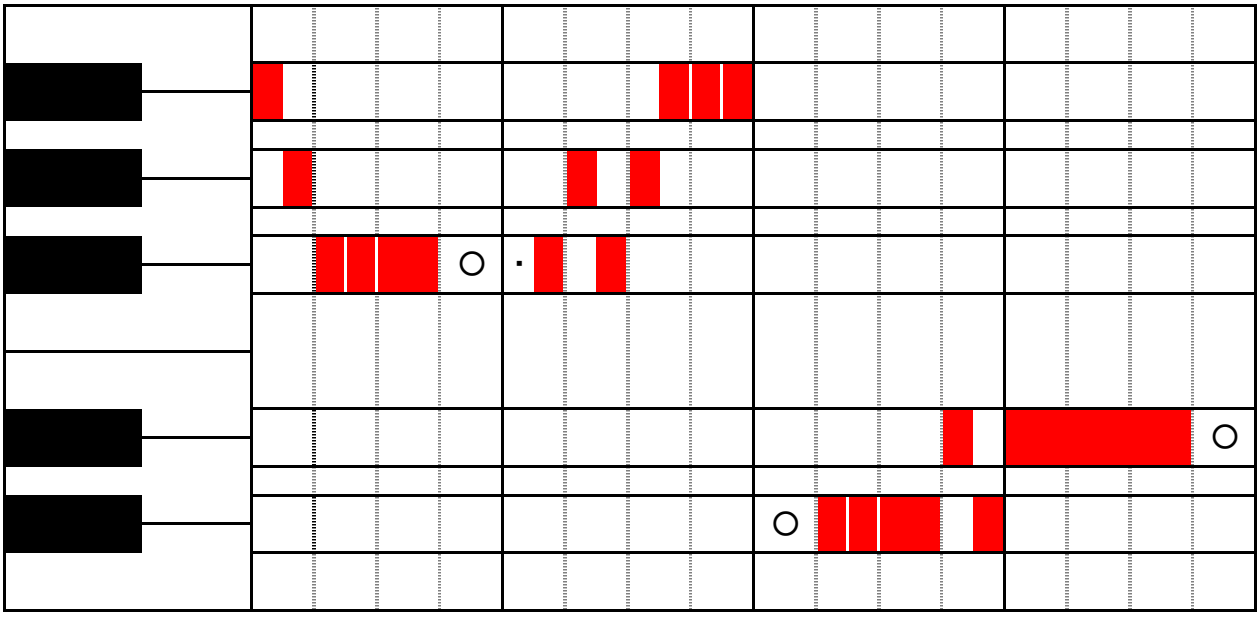
第２学年　Ａ 表現　(2)器楽

モーツァルトのソナタ(K.331より)



第１学年　Ａ 表現　(3)創作　「旋律づくり」　記譜例

なのはなや　○　・つきはひがしに　○　ひはにーしーにーーーーーー　○



＜Ａ　表現＞

(3) 創作の活動を通して

＊中学校学習指導要領「第４章　指導計画の作成と内容の取扱い　２　内容の取扱いと指導上の配慮事項」より

(5) 創作の指導については，即興的に音を出しながら音のつながり方を試すなど，音を音楽へと構成していく体験を重視すること。その際，理論に偏らないようにするとともに，必要に応じて作品を記録する方法を工夫させること。

第１学年　Ａ　表現　(3) 創作
題材名「言葉と音楽」　教材名「旋律づくり」

【第１学年の目標】

(1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して，音や音楽への興味・関心を養い，音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。

(2) 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り，基礎的な表現の技能を身につけ，創意工夫して表現する能力を育てる。

(3) 多様な音楽のよさや美しさを味わい，幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる。

【第１学年の創作の指導事項】

ア　言葉や音階などの特徴を感じ取り，表現を工夫して旋律をつくること。

イ　表現したいイメージをもち，音素材の特徴を感じ取り，反復，変化，対照などの構成を工夫しながら音楽をつくること。

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項　→　ア

・言葉の抑揚やリズムの特徴を生かして，簡単な旋律をつくる。

【学習の流れ（例）】

学　習　の　流　れ　（例）	〔共通事項〕との関連
○　曲を付けるための俳句や詩を選び，つくりたい曲のイメージを持つ。 ・俳句を一つ選び，「楽しい感じの曲」「ゆったりした感じの曲」など，おおまかなイメージを持つ。 ○　言葉のまとまり，抑揚やアクセントを調べる。 ・俳句や詩を言葉のまとまりで分けたり，言葉の抑揚を図に表したりする。 ○　黒鍵の音から選んで，言葉に音を付けていく。 ※鍵盤ハーモニカやキーボードを使用する。 ※小節数や拍子を自由に設定することも考えられる。 ・言葉のまとまりや抑揚，アクセントなど調べたことを基に，音を当てはめていく。（鍵盤ハーモニカを使いながら音を確かめる） ・言葉をどのように分けるか考えるとともに，四分音符だけでなく，伸ばす音（二分音符・全音符等）や八分音符の使用など，リズムについても合わせて考える。 ・まとまりのある旋律とする。 ・ワークシート等にイメージや楽譜（楽譜に代わる物）などについて記録を残しておく。（記譜例→p. 96 参照） ・可能な場合は，つくった曲に強弱を付ける（ワークシートに書き込む）。 ・楽器で音を確かめるだけでなく，時々は実際に歌ってみることで，歌いにくい部分がないか，初めに持ったイメージに合っているか等について確かめる。	リズム 構成 フレーズ 拍子 強弱

○　つくった曲を紹介し合う。 ・全体または小グループの中で自分の曲を歌って紹介する。 ・紹介するときは，曲のイメージや工夫した点などを伝える。 ・発表やワークシートにお互い感想を書き込むことで，曲のよさや更に工夫するとよい点などを伝え合う。	

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
・言葉の抑揚やリズム，曲のイメージに合うように，音を選んだりリズムを考えたりするなど，イメージと音や構成を結び付けることに関心を持ち，音楽表現を工夫しながら音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。	・言葉の抑揚に合わせて音を選んだり，リズム，速度，旋律，強弱，構成などを知覚しながら，自分のイメージに合うようにそれらの組合せを工夫したりして，思いや意図を表現しようとしている。	・言葉の抑揚に合わせた音の選択，リズム，速度，旋律，強弱，構成，記譜の仕方など，音楽表現をするために必要な技能を身に付けて簡単な旋律をつくっている。

～小学校における「創作」～

小学校では，「創作」は「音楽づくり」として示され，『児童が自らの感性や創造性を発揮しながら自分にとって価値のある音楽をつくること』と定義されています。そして音楽づくりのための発想を持ち即興的に表現する能力や音を音楽に構成する能力を育てることが指導のねらいとなっています。当然，低学年・中学年・高学年とそれぞれの発達の段階において経験を積み上げてくるわけですが，低学年の「音遊び」のように音や声そのものを楽しむことから始まり，少しずつ「これらの音をこうしたら音楽になるかな」といった考えを持って取り組ませていきます。また，記譜を工夫するなどしてある程度同じものを再現可能にすることが前提ですが，つくった音や音楽を即興的に表現することも大切にされています。

高学年では，それまでに経験してきた歌唱・器楽・鑑賞などの様々な音楽活動を基に，自分が音楽づくりで役立てられるような発想を得たり，表現に生かす方法を考えたりします。さらに，つくる音楽に対して明確な考えや意図を持たせ，その実現に必要な音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを選んだり組み合わせたりして，まとまりのある音楽となるように指導していくことになります。

中学校（第１学年）では，より発展して音楽を形づくっている要素との関わりや音のつながり方を考えたり，反復や変化などといった音楽の構成原理を意識して音楽をつくったりすることが求められるようになります。どの学習でも同じですが，小学校でどの程度「音楽づくり」を経験しているかを把握し，生徒の実態に合った教材となるよう題材構成を工夫していきましょう。

第１学年　Ａ　表現　(3) 創作
題材名「情景を音楽で表そう」
教材名「『魔王』～１分間のショートストーリー～」

【第１学年の目標】

(1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して，音や音楽への興味・関心を養い，音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。

(2) 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り，基礎的な表現の技能を身につけ，創意工夫して表現する能力を育てる。

(3) 多様な音楽のよさや美しさを味わい，幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる。

【第１学年の創作の指導事項】

ア　言葉や音階などの特徴を感じ取り，表現を工夫して旋律をつくること。

イ　表現したいイメージをもち，音素材の特徴を感じ取り，反復，変化，対照などの構成を工夫しながら音楽をつくること。

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項　→　イ

・同じ楽器でも，演奏の仕方や音の高低によって音の質感が変わり，イメージに合った音をつくり出すことができることに気付く。
・音の高低やリズム，強弱，速度といった音楽を形づくっている要素に働き掛けたり，構成を工夫したりすることによって，場面に合う音楽をつくろうとする。

《題材を設定するに当たって》

ゲーテ作詞，シューベルト作曲の「魔王」を，歌詞やセリフ無しで音楽だけで表現していき，１分間という限られた時間の中で「魔王」の物語のダイジェスト版をつくる活動を行う。

不気味な夜，馬に乗っている親子，泣き叫ぶ子，甘くささやきかけてくる魔王，本性を表し子を連れ去ってしまう魔王，ついに死んでしまった子など，特徴的な場面を今回は楽器の音だけで表現していく。ナレーションや台詞（せりふ）など，言葉を使って場面を表し，その効果音として演奏するのではなく，音や音楽だけで「魔王」の情景や登場人物の心情を表現していく。あらかじめ三つの場面を設定することによって，音高，リズム，強弱，速度といった音楽を形づくっている要素に働き掛け，情景や心理状態の違いを表せることに気付くだろう。また，１分間という短い間に「魔王」のストーリーを凝縮し，父・子・魔王の掛け合いやそれぞれの心理状態を表現するためにはテクスチュアを工夫したり構成を工夫したりすることも必要となるだろう。小学校でも情景を音楽で表す活動は行われているが，本題材では，できるだけ直接的な表現（馬の走る音をタッタカタッタカで表すなど）をせずに，その場面の雰囲気や心理状態を表すようにしたい。限られた時間の中で，イメージを音にしたり構成を工夫したりして，楽器だけで一つの作品をつくりあげる楽しさを実感させたい。

なお，本事例は，鑑賞と創作を組み合わせた題材を構成し，鑑賞で扱う〔共通事項〕を創作にも生かせるような鑑賞活動を行うことを前提としている。鑑賞において，音色，旋律，リズム，速度，強弱といった音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを感じ取って聴く活動を十分行い，創作活動につなげたい。

また，ヴィヴァルディの『四季』等で「ソネットと音楽との関わり」を学習していれば，詩の様子をどのように音楽で表現していたか想起し，学びをつなげることで，本題材のねらいがさらに深まることが期待できる。

【学習の流れ（例）】

学　習　の　流　れ　（例）	〔共通事項〕との関連
○　「魔王」を聴き，鑑賞で学習したことを想起する。 ・役柄によって歌い方や音の高さが違っていたな。 ・子どもは少しずつ音を高くしていくことによって，恐ろしさが増している様子を表していたな。 ・伴奏は馬が駆けている様子や風の音をリズムや音の動きで表していたな。 ○　「魔王」のストーリーを確認し，次の三つの場面を鍵盤楽器とリコーダー類のみをつかって約１分間で表現していくことを理解する。 **(1) 風の夜に馬を走らせている父と子がいる。** **(2) 魔王が声を掛け，子どもは恐怖におののく。** **(3) やっとのことで宿についたが，子どもは既に亡くなっていた。** ○　役割を決め，その役割や場面に合う音素材や主題，構成を考える。 ・各役柄や情景，状況を表す楽器（音素材）を考えたり，短いテーマやモチーフを考えたりする。 ・楽器（音素材）の特徴を感じ取り，テーマやモチーフの表現の仕方（音の高低，リズム，速度，強弱）を工夫したり，反復，変化，対照などの構成を工夫したりしながら，それぞれの場面に合った音楽をつくっていく。 ・ワークシートに１分間という時間の流れの中で，それぞれの役割と表現の仕方を考え，一つの作品として構成していく。 ※即興的に音を出しながら音楽作品にしていく。（効果音に留まらないようにする）	音色 旋律 リズム 速度 強弱 テクスチュア

【例】	0:00～	0:10～	0:20～	0:30～	0:40～	0:50～
父　（ﾏﾘﾝﾊﾞ）		低音で遅めに，四分音符で徐々に音上昇			***accel.***	***rit.***
子　（SR）		ラーシ遅く	シドシド	ドレ-ドレ-	ﾐﾌｧﾐﾌｧ～	***pp***
魔王（ﾋﾟｱﾉ）			高音明るく	中音明るく	低音暗く強	
馬　（SD） 風(BD+Cym)	枠打 ***pp***＜ ﾛｰﾙ＜ ＞	***mp*** 時々面を強くﾛｰﾙ	魔王の時は馬は無し	風と馬の音を交互に	―――――→	***rit.*** ＞ ***pp***

○　他のグループと交流しながら，どんな場面を表現しているかお互いに聴き合い，アドバイスし合う。 ・三つの場面の変わり目に着目して聴くなど，工夫して良いと感じたところを伝え合いながら，自分たちの表現を高めていく。 ○　発表会を行う。	

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
・音素材の特徴やモチーフの反復，変化，対照などの構成に関心を持ち，音楽表現を工夫しながら音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。	・音色，旋律，リズム，速度，強弱，テクスチュア，構成を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，音楽で表現したいイメージを持ち，音素材の特徴を感じ取ってモチーフの反復，変化，対照などの構成を工夫し，どのように音楽をつくるかについて思いや意図を持っている。	・音素材の特徴，モチーフの反復，変化，対照などの構成を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて音楽をつくっている。

第２学年　Ａ　表現　(3) 創作
題材名「リズムの重ね方を工夫しよう」　教材名「ボイスアンサンブル」

【第２学年及び第３学年の目標】

(1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して，音や音楽への興味・関心を高め，音楽によって生活を明るく豊かなものにし，生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。

(2) 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り，表現の技能を伸ばし，創意工夫して表現する能力を高める。

(3) 多様な音楽に対する理解を深め，幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。

【第２学年及び第３学年の創作の指導事項】

ア　言葉や音階などの特徴を生かし，表現を工夫して旋律をつくること。

イ　表現したいイメージをもち，音素材の特徴を生かし，反復，変化，対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくること。

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項　→　イ

・言葉をリズムにのせ，そのリズムを反復・変化させるなど構成を工夫して音楽をつくる。

・リズムの組合せや各声部の重ね方を工夫しながら，ボイスアンサンブルの面白さを追究する。

【学習の流れ（例）】

学　習　の　流　れ　（例）	〔共通事項〕との関連
○　既製の曲や簡易な曲（教師の自作曲）の歌唱表現を通して，ボイスアンサンブルの存在を知ったり親しんだりする。	
○　身近な言葉にリズムを付けてリズム遊びを楽しむ。 ・リズム（音符）を提示して，そのリズムに当てはまる言葉を探す。 例）♪♩　♪→スポーツ　♪𝄾♪♪♩→オットセイ	リズム
・言葉を提示して，その言葉に合うリズムを付け，音符や表に書き表す。 例）♩ ♩ ♩ 𝄽 み し ま　はら 𝄽 はら 𝄽　ふ ― じ ●	
・教師と生徒や生徒同士で，リズムボックスなどのビートにのりながら，同じ言葉や違う言葉をコール＆レスポンスしたり同時に発したりしながらリズム遊びを行う。 例）拍：◆　◆　◆　◆　｜◆　◆　◆　◆　｜ Ｔ：み　し　ま　・　Ｓ：み　し　ま　・ Ｔ：ぬまづ　・　・　Ｓ：ぬまづ　・ Ｔ：はら・　はら・　Ｓ：はら・　はら・ Ｓ１：ふ　ー　じ　・　しんふじ・　・ Ｓ２：しずおか・ひがし　・ひがししずおか・	リズム テクスチュア

※それぞれＣ＆Ｒでリズムを取った後，同時に発したり，交互に発したりしながらリズムの掛け合いや重なり合いを楽しむ。

○　小集団でテーマを決め，そのテーマに関係する言葉を選び，リズムを付けていく。単語や短文などリズムを付けやすく，自分たちで歌唱表現が可能な程度の言葉にしておく。 例）テーマ「夏」…うみ　プール　かき氷　花火　中体連　夏季講習 テーマ「夏」…海に行き　波にもまれて　ぐちゃぐちゃに 中体連　暑くて　辛くて　でも勝った　優勝だあ	リズム
○　拍子を決め，冒頭－中間－終末をどのような感じにしていくかおおまかなイメージを相談しながら演奏進行表に各声部の担当箇所を決めていく。 **（演奏進行表の例）**	リズム テクスチュア 構成

うみ	う	み	・	・	う	み	・	・	う	み	・	・	う	み	・	・	Woo-	夏	・	う	み	・	・
プール	・	・	プール		・	・	プール		・	・	プール		・	・	プール		Woo-	夏	・	・	・	・	・
かき氷	・	・	・	・	・	・	かきご		おりー		かきご		おりー		・	・	Woo-	夏	・	・	・	・	・
花火	・	・	・	・	・	・	・	・	花火花火		・	・	花火花火		・	・	Woo-	夏	・	花火花火		・	・

※各声部の重ね方や全体の構成が小集団の中で共通理解でき，記録に残すことで，いつでもどこでも再現性のある表を作っていく。表の書き方は，例のように数字や記号，言葉，音符など，自分たちが書きやすく見やすいものになるよう工夫する。	
○　実際に歌って試しながら，リズムの掛け合いや重なり方を工夫したり，ユニゾン（同じ言葉を発する箇所）を意図的に入れたりして，全体のまとまりや流れを考えて作品をつくっていく。	リズム テクスチュア 構成
○　強弱，速度などを工夫し，自分たちのイメージに合った音楽にしていく。また，中間発表などを行い，相互評価しながら自分たちのボイスアンサンブルがより面白くなるよう工夫していく。	強弱 速度

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
・言葉によるリズムの特徴，反復，変化，対照などの構成や全体のまとまりに関心を持ち，それらを生かし音楽表現を工夫しながら音楽をつくる学習に取り組もうとしている。	・リズム，テクスチュア，構成を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，音楽で表現したいイメージを持ち，言葉によるリズムの特徴を生かし，反復，変化，対照などの構成や全体のまとまりを工夫し，どのように音楽をつくるかについて思いや意図を持っている。	・言葉によるリズムの特徴，反復，変化，対照などの構成や全体のまとまりを生かした音楽表現をするために必要なリズムづくりや各声部の組合せ方の技能を身に付けて音楽をつくっている。

「創作における記譜」について

○　つくった音楽を，五線譜だけではなく，文字，絵，図，記号，コンピュータなどを用いてどのように記録するかについて工夫させることも大切である。　中学校学習指導要領解説　音楽編 p. 64

○　記譜の指導に当たっては，視唱や視奏の活動において，つくった音楽を必要に応じて視覚的にとらえたり，その音楽を再現したりする手掛かりとなるよう記譜の仕方を工夫するようにする。その場合，絵譜やグラフィックによるものなど，児童の実態や活動の内容に応じて工夫するようにする。
小学校学習指導要領解説　音楽編 p. 75

第３学年　Ａ　表現　(3) 創作
題材名「古都(こと)を訪ねて」　教材名「修学旅行記　箏集編」

【第２学年及び第３学年の目標】

(1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して，音や音楽への興味・関心を高め，音楽によって生活を明るく豊かなものにし，生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。

(2) 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り，表現の技能を伸ばし，創意工夫して表現する能力を高める。

(3) 多様な音楽に対する理解を深め，幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。

【第２学年及び第３学年の創作の指導事項】

ア　言葉や音階などの特徴を生かし，表現を工夫して旋律をつくること。

イ　表現したいイメージをもち，音素材の特徴を生かし，反復，変化，対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくること。

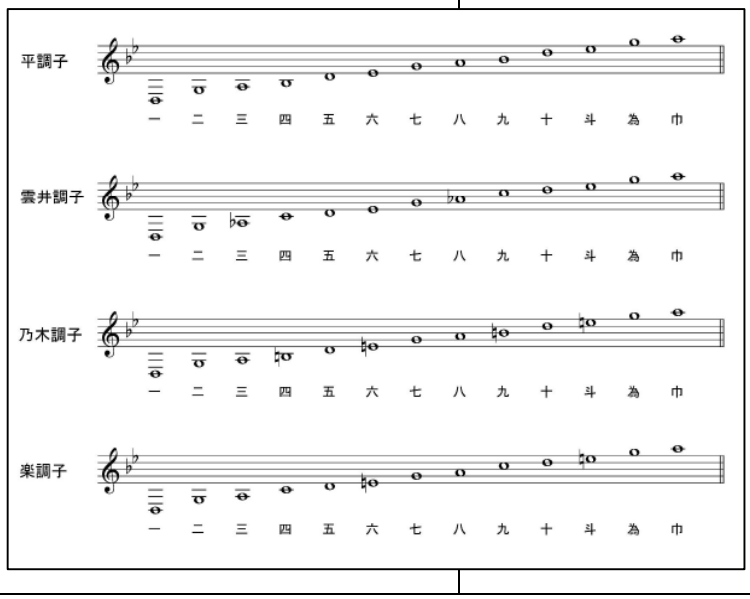
【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項　→　ア

・いろいろな箏の調弦の特徴を生かして，自分のイメージに合った旋律をつくる。

・器楽表現で身に付けた箏のいろいろな奏法を創作に生かし，自分のイメージに近付けていく。

【学習の流れ（例）】

学　習　の　流　れ　（例）	〔共通事項〕との関連
※このような題材を修学旅行後に行うということを年間指導計画に位置付け，１年次より箏に触れたり様々な奏法を身に付けたりして，箏の魅力を生かした創作がスムーズに行えるよう，系統的に取り組みたい。 ○　「さくらさくら」を各調子（平調子・雲井調子・乃木調子・楽調子など）に調弦した箏で演奏したり聴いたりして，それぞれの違いを感受する。 ・「さくらさくら」を各調子に調弦した箏で演奏したり聴いたりしながら，それぞれの違いを感受する。 ・各調子の構成音を聴いたり五線譜で見たりして，その違いを知る。 ・各調子で演奏される曲を聴き，各調子の雰囲気を感受する。 例）平調子：うさぎ，荒城の月　など 雲井調子：五木の子守歌　など 乃木調子：花笠音頭　など 楽調子：こきりこ節　など 	音階

○　箏で表現する修学旅行の場面や場所などを考えながら，どの調子で音楽をつくっていくかを決める。グループで行う場合には，班別研修等のコースを分担して表現し，思い出を音楽で綴っていく。 例）金閣寺　→　豪華絢爛（けんらん）　→　乃木調子で明るく 銀閣寺　→　地味・渋い　→　平調子の落ち着いた音で 楽しい部屋での生活のはずが…　→　楽調子から雲井調子へ ※思い出に残った情景をひとつに絞って，そのイメージを音楽で表現したり，ストーリー性を持たせて修学旅行記のBGMとして表現したりするなど，生徒の実態に応じて設定する。 ○　約束事を決め，即興的に音を出しながら旋律をつくる。その際，縦書きの楽譜（家庭式縦譜）に書き留めておく。 ・４分の４拍子で，８小節分，細かな音符は八分音符までとするなど，家庭式縦譜に記譜しやすいような約束事を決めておく。 ・選んだ調子の雰囲気を生かすためにはどのようにしたらよいか工夫する。 ○　ピッツィカートや流し爪，トレモロなど，いろいろな奏法を取り入れて，より豊かな箏の表現を工夫する。 ※各調子の雰囲気を出すには，いろいろな弦に跳ぶよりも，隣りあった弦の音をつなぐ方がよいことを知覚したり，奏法や音域による雰囲気の違いを感受したりして，自分（たち）のイメージに近づけられるよう試行錯誤させたい。 ○　イメージにあった音楽になっているか，調子を生かした音楽になっているかといった視点を明確にしながら，互いに聴き合う活動を通して，よりよい作品づくりを行う。	音階 旋律 リズム 構成 音色

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
・箏の各調子の構成音によって生み出される独特な雰囲気に関心を持ち，それらを生かし音楽表現を工夫して旋律をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。	・旋律，リズム，構成，音色などを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，箏の調子や様々な奏法などの特徴を生かした音楽表現を工夫し，どのように旋律をつくるかについて思いや意図を持っている。	・箏の各調子の音階などを生かした音楽表現をするために必要な音のつなげ方や縦書き楽譜の記入の仕方などを身に付けて旋律をつくっている。

箏は，いくつもの調弦方法があり，構成音の違いが調子独特の雰囲気を生み出します。平調子の音楽に親しみ，「七七八　七七八～」と弦を弾けば「さくらさくら」が演奏できると思っている生徒たちには，他の調子による「さくらさくら」は何とも面白い音楽に感じることでしょう。「箏はこのようにして様々な表情の音楽を奏でることができる。」ということも十分味わわせながら，それぞれの特質や雰囲気を知覚・感受し，自分のイメージにぴったりの調子を見つけ創作していく。また，器楽表現で体得したいろいろな奏法のよさを生かしていく。

このような様々な表情の音楽を容易に作曲できることも，箏の素晴らしいところです。

＜Ｂ　鑑賞＞

(1) 鑑賞の活動を通して

＊中学校学習指導要領「第４章　指導計画の作成と内容の取扱い　２　内容の取扱いと指導上の配慮事項」より

(7) 各学年の「Ａ表現」及び「Ｂ鑑賞」の指導に当たっては，次のとおり取り扱うこと。

ア　生徒が自己のイメージや思いを伝え合ったり，他者の意図に共感したりできるようにするなどコミュニケーションを図る指導を工夫すること。

第１学年　Ｂ　鑑賞

題材名「日本の楽器の響き」　教材名「巣鶴鈴慕（そうかくれいぼ）」

【第１学年の目標】

(1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して，音や音楽への興味・関心を養い，音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。

(2) 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り，基礎的な表現の技能を身に付け，創意工夫して表現する能力を育てる。

(3) 多様な音楽のよさや美しさを味わい，幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる。

【第１学年の〈鑑賞〉指導事項】

ア　音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って聴き，言葉で説明するなどして，音楽のよさや美しさを味わうこと。

イ　音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて，鑑賞すること。

ウ　我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴から音楽の多様性を感じ取り，鑑賞すること。

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項　→　ア

・我が国の伝統音楽におけるリズムや速度に関する特徴的なものの一つである「間（ま）」によって醸し出される雰囲気や味わいなどを感じ取る。

・緩急の変化が生み出す音楽の表情などを感じ取る。

・尺八の様々な音色やその変化，奥深い豊かな表現を味わう。

【学習活動例】

学　習　活　動　例	〔共通事項〕との関連
○「巣鶴鈴慕」について確認（説明）する。 ・楽曲の背景について分かったことをワークシートにまとめる。 ○「巣鶴鈴慕」の初段を聴く。 ・音の特徴について気付いたことを話し合う。 ○「巣鶴鈴慕」の初段で用いられる奏法（スリ上げ，コロコロ，タマネ）について説明した動画を視聴する。 ・初段で用いられる奏法について，ワークシートにまとめる。 ○音の動きに着目して，再度，「巣鶴鈴慕」の初段を聴く。 ・スリ上げ，コロコロ，タマネのそれぞれについて，緩急の変化が生み出す音楽の表情（音の高さ，音の動き，音色の感じはどうだったか）と関連付けてワークシートにまとめる。	速度 音色

・「間」によって醸し出される雰囲気や味わいなどについてワークシートにまとめる。 ・少人数グループで各人が発表し，感じ方の多様性について理解を深める。 ・再度，各人でワークシートにまとめる。 ・巣鶴鈴慕の初段を繰り返し聴く。 ・各人で，「『間』によって醸し出される雰囲気や味わい」と，「緩急の変化が生み出す音楽の表情」についてワークシートにまとめる。	構成 形式

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
・音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを感じ取りながら，尺八特有の音色や奏法に関心を持ち，それらの表現効果について鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	・音楽を形づくっている「間」の要素を知覚し，それらの働きが醸し出す特質や雰囲気を感受しながら，解釈したり価値を考えたりし，言葉で説明するなどして，「巣鶴鈴慕」の初段のよさや美しさを味わって聴いている。

「間」について

「間」は，我が国の伝統音楽におけるリズムや速度に関する特徴的なものの一つである。例えば，間によって醸し出される雰囲気や味わいなどを表現や鑑賞の活動を通して感じ取ることなどが考えられる。

中学校学習指導要領解説　音楽編p. 68

「音楽のよさや美しさを味わう」とは

「音楽のよさや美しさを味わう」とは，例えば，表層的に快い，きれいだといったことにとどまることなく，その音楽の内容を価値あるものとして自らの感性によって確認する主体的な行為のことである。

さらに，自ら感じたことや自分なりに解釈したことを基に話し合う場面を設けることによって，他者の感じ方や解釈も参考にして，より深く音楽を鑑賞することが考えられる。

中学校学習指導要領解説　音楽編p. 36

第２学年　Ｂ　鑑賞
題材名「曲の仕組みに注目して聴こう」　教材名「ボレロ」

【第２学年及び第３学年の目標】

(1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して，音や音楽への興味・関心を高め，音楽によって生活を明るく豊かなものにし，生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。

(2) 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り，表現の技能を伸ばし，創意工夫して表現する能力を高める。

(3) 多様な音楽に対する理解を深め，幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。

【第２学年及び第３学年の鑑賞の指導事項】

ア　音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き，根拠をもって批評するなどして，音楽のよさや美しさを味わうこと。

イ　音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して，鑑賞すること。

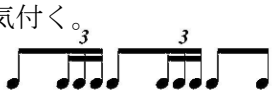
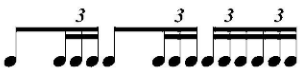
ウ　我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴から音楽の多様性を理解して，鑑賞すること。

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項　→　ア

・延々と繰り返されるリズムと二つの主題を聴き取り，曲の構成の面白さに気付く。

【学習活動例】

学　習　活　動　例	〔共通事項〕との関連
○　「ボレロ」について興味・関心を持つ。 ・冒頭の部分を聴かせて，聴き覚えの有無を尋ねたり，ＣＭ等で使われていることを話題にしたりする。 ・バレエ音楽としてラヴェルが作曲したこと，ボレロとはスペイン発祥の歌曲・舞曲であることなどを知る。 ○　「ボレロ」のリズムや主題を覚え親しむ。 ・初めの部分を聴きながら，リズムに合わせて手を打ったり，指で机をたたいたりして，特徴的なリズムを覚える。 ・二つの主題を聴かせ，「La La La～」などで口ずさむことで旋律を覚える。	旋律
○　曲の仕組みに注目して聴く。 ＜旋律に着目する＞ ・主な二つの旋律を聴き分けながら，全体を通して聴く。 例１）主題Ａと主題Ｂを示し，Ａが聞こえたら，ワークシートに赤で印を付け，Ｂが聞こえたら青で印を付ける。 例２）主題Ａが聞こえたら右手を挙げ，主題Ｂが聞こえたら左手を挙げる。 ・楽器の種類と数，音色や響き，強弱等，主題を演奏する楽器の変化に注目して聴く。	リズム
＜リズムに着目する＞ ・リズムの特徴を見付ける。 曲に合わせてリズムを手で打つなどして，同じリズムが繰り返されていることに気付く。 ・細かく動く  や  のリズムだけで	旋律 音色 リズム

なく，弦楽器などによる のリズムもあることに気付く。 ＜その他＞ ・盛り上がっている部分はどこか探しながら聴く。 ・曲の中で，「変化していること」と「変化していないこと」があるのを見付けながら聴く。 ○　曲の仕組みや特徴を踏まえながら，自分なりに批評する。 ＜旋律に着目して＞ ・主題を繰り返すことによって生み出される効果 ・演奏する楽器の変化に伴う主題の音色の変化 ＜リズムに着目して＞ ・リズムを繰り返すことによって生み出される効果 ・リズムの音色，楽器の種類，強弱の変化 ＜曲の構成に着目して＞ ・強弱，音色，楽器の組み合わせ，転調，曲の始まり方と終わり方等 ○　批評を紹介し合い，それらを踏まえて再度鑑賞する。 ・批評のワークシートを交換して見合ったり，小グループの中で発表したりした後でもう一度鑑賞し，友達の感じ方を確かめる。 ・友達の批評のよさや自分の感じ方との違いを見付けるとともに，それらを確かめながら，最後にもう一度鑑賞する。 ○〈発展的な扱い〉 ・バレエの「ボレロ」の映像があれば合わせて鑑賞し，楽曲の曲想の変化と振り付けの変化との相乗効果などを理解する。	反復 強弱 テクスチュア 変化 「根拠をもって批評する」についての指導は，中学校学習指導要領 p. 51(2) B 鑑賞アに解説されていることを参考にしてください。

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
・「ボレロ」を形づくっている音色，旋律，強弱，リズム，テクスチュア，構成などの要素や，その要素同士の関わり，音楽の展開の有様と，曲想との関わりに関心を持ち，鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	・音色，旋律，強弱，リズム，テクスチュア，構成などの要素を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを理解して，解釈したり価値を考えたりし，根拠を持って批評するなどして，音楽のよさや美しさを味わって聴いている。

～鑑賞の仕方について～

「ボレロ」はバレエ音楽として作曲されました。しかし現在では，バレエ音楽という枠にとどまらず，演奏会用のオーケストラ作品としても盛んに演奏されています。

本事例では，バレエ音楽との関係は発展的に扱う場合のみに触れるようにし，聴取活動を中心に扱っています。これは，指導事項アを主とした楽曲の構造に気付く力を育てることをねらった題材だからです。指導事項イと関連させる題材とすれば，もっとバレエについて調べたり，他のポピュラーなバレエ音楽についても扱ったり，映像を見せたりという学習を取り入れる必要があります。

このように，題材の目標によって，楽曲との出会わせ方や鑑賞のさせ方など学習活動そのものが変わってきます。ですから，題材の目標に迫るために，『この鑑賞の授業では映像付きのものを鑑賞させるのか，楽曲そのものに注目させたいので映像なしの鑑賞にするのか』『オーケストラ作品にするのか，ピアノ作品にするのか』など，事前によく検討し，鑑賞教材を使い分けることが大切です。

鑑賞に限らず，「何を教えたいのか」「何を感じ取らせたいのか」「どんな力を身に付けさせたいのか」などを常に頭において授業を構成していきましょう。

第３学年　Ｂ　鑑賞
題材名「日本の伝統的な舞台芸術：能」　教材名「羽衣（はごろも）」

【第２学年及び第３学年の目標】

(1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して，音や音楽への興味・関心を高め，音楽によって生活を明るく豊かなものにし，生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。

(2) 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り，表現の技能を伸ばし，創意工夫して表現する能力を高める。

(3) 多様な音楽に対する理解を深め，幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。

【第２学年及び第３学年の鑑賞の指導事項】

ア　音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き，根拠をもって批評するなどして，音楽のよさや美しさを味わうこと。

イ　音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して，鑑賞すること。

ウ　我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴から音楽の多様性を理解して，鑑賞すること。

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項　→　イ，ウ

・能に興味・関心を持ち，日本の伝統的な芸術の特徴や音楽の役割を理解しながら鑑賞する。

・能特有の声の出し方や楽器の音色の特徴などを感じ取って鑑賞する。

【学習活動例】

学　習　活　動　例	〔共通事項〕との関連
○　能について，他教科の学習と関連付けながら知っていることを出し合う。 ・歴史で学習した室町文化，猿楽（さるがく）・田楽（でんがく），観阿弥（かんあみ）・世阿弥（ぜあみ）等を押さえながら，能が発祥，発展した流れを理解する。 ・面（おもて），謡（うたい）や舞台のことなど，能に関わることを想起する。	
○　能「羽衣」のあらすじを理解し，天人が舞を披露し，羽衣をまとって天界に舞い上がっていく場面（『破ノ舞』から）の音楽に着目して視聴する。 ・歌詞を追いながら聴き，地謡（じうたい）が謡っている情景や内容をつかむ。 ・謡の伴奏をしている楽器の演奏の様子を聴き取る。 ・謡のリズムや速度の変化などを聴き取り，その変化や謡い方，楽器の伴奏の仕方から情景を感じ取り，ワークシートにまとめる。 **※謡を体験する活動を行うために，最後の場面を部分的に鑑賞する。**	音色 リズム 速度
○　最後の場面「**さるほどに　時移って～霞に紛れて　失せにけり**」の部分の謡を体験する。 ・歌詞を追いながらＣＤに合わせて謡ったり，字幕付きの映像資料等を見ながら合わせて謡ったりする。 **※表現領域(1)歌唱の指導を行う訳ではないが，速度の違いや音の高低を意識しながら，伴奏のリズムにのって謡う体験をさせたい。**	旋律 リズム 速度

○　謡（うたい）や囃子（はやし）の場面を中心に「羽衣」を視聴する。
・囃子の演奏でワキ（白竜）が登場する場面の音楽に着目して視聴する。
・シテ（天人）が表れ，衣を返して欲しいと願う場面の掛け合いの様子に着目して視聴する。
※言葉の意味を理解できるようにする。
※途中から囃子の楽器が演奏されるので，その効果などを感じ取る。
・舞を披露し，羽衣をまとって天界に戻っていく場面の舞踊や音楽に着目して視聴する。
※音楽を形づくっている要素に着目して聴き，体験した謡（大ノリ型）と比較しながら様々な謡や囃子の演奏を鑑賞するようにしたい。

○　オペラや歌舞伎など他の総合芸術との違いを理解する。
・音楽（楽器の種類，謡など），舞踊（舞），演技（面や動きなど），舞台や衣装など観点ごとにまとめる。

音色
リズム
速度

（例）	楽器	うたい方	舞踊	演技	舞台・衣装
能					
歌舞伎	舞台後ろの囃子方と三味線方で演奏	舞台後ろの唄方が１人や複数で唄う	主役が舞う。「延年の舞」など激しい	大げさな動きや見得などが特徴	廻り舞台や花道隈取の特殊な化粧
オペラ	オーケストラが舞台の下で演奏	ソロや重唱，合唱など色々な歌い方	専門のダンサーが踊る	会話や心の中のことも歌で表す	大道具などで場面に合う舞台や衣装

※歌舞伎やオペラについての学習で観点別にまとめておくと，総合芸術の学習というまとまりで題材を構成することも可能になります。

○　能舞台，能面，型，舞，装束などの中から調べてみたい事柄を選び，調べたことを発表し合う。
※「面（おもて）」のテラス・クモラス，「型（かた）」のシオリ，モロシオリなど，教科書に掲載されている内容を押さえられるようにする。

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
・能の特徴とその独特の音楽やその背景となる文化・歴史，他の芸術との関連に関心を持ち，鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	・音色，リズム，旋律，速度を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて能の特徴を理解して，解釈したり価値を考えたりし，鑑賞している。

〈ノリ地〉
東遊（あずまあそび）の　数々に
東遊の　数々に
其の名も月の　色人は
三五夜中（さんごやちゅう）の　空にまた
満願真如（まんがんしんにょ）の　影となり
御願（ごがん）圓満　國土成就
七宝充満（しっぽうじゅうまん）の　宝を降らし
國土にこれを　施し給ふ
さるほどに　時移って
天の羽衣
浦風に棚引き棚引く
三保の松原　浮島が雲の
愛鷹山（あしたかやま）や　富士の高嶺（たかね）
幽（かす）かになりて
天つ御空の　霞に紛れて
失せにけり